

所属・資格 哲学科・准教授

申請者氏名 土屋 睦廣

研 究 課 題		プラトニズムにおける『ティマイオス』の伝統の研究
報 告 の 概 要	研究目的 および 研究概要	西洋古代思想におけるプラトニズムの伝統の歴史を、プラトン『ティマイオス』の受容と再解釈という観点から解明することを目的として、原典資料の精査と、それらに関わる研究文献を参照・検討した。本年度はとくに、プラトニズムの伝統において歴史的に重要な位置を占める古代末期のカルキディオスの『プラトン「ティマイオス」註解』を中心に研究を進めた。なお本年度は、同書の翻訳出版のための作業（解説執筆、推敲と校正、索引作成等）に多くの時間を費やした。
	研究 の 結果	カルキディオスの『プラトン「ティマイオス」註解』におけるヘブライ人の説への言及箇所を網羅的に検討することで、カルキディオスの思想的背景を理解するための手がかりとした。カルキディオスのヘブライ思想への言及は 9 箇所へのぼり、必ずしもすべてを好意的に扱っているわけではないが、彼がヘブライ思想に相当な敬意を払っていたことは明らかである。ことに、『創世記』の天地創造の解釈をかなり立ち入って論じていることは注目に値する。フィロンやキリスト教思想家たちが、『創世記』解釈との関連から『ティマイオス』に関心を持ったのとは逆に、カルキディオスは『ティマイオス』解釈との関連から『創世記』に高い関心を持っていたと考えられる。カルキディオスは、おそらく「七十人訳」のギリシア語で旧約聖書を読んでおり、オリゲネスの『創世記註解』も直接読んでいた可能性が高い。
	研究 の 考 察 ・ 反 省	本研究の成果は、カルキディオス自身の思想を考えるうえで、従来見過ごされてきた一つの重要な視点を提供するものと評価できる。彼がギリシア哲学の文脈の中で、アリストテレスやストア派と並べて、ヘブライ思想をも考察に値するものとして扱っていることは、もっと注目されてよいことである。 なお、カルキディオス『プラトン「ティマイオス」註解』の本邦初の翻訳書（詳細な訳註と解説、索引を付す）を出版できたことは、私にとっては 20 年近くに及ぶカルキディオス研究の集大成であり、我が国の西洋古典研究においても一定の成果であったと言えよう。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究発表 日本宗教学会第 78 回学術大会 「カルキディオスのヘブライ思想への言及」 2019 年 9 月 14 日、帝京科学大学千住キャンパス 『宗教研究』第 93 巻別冊 163-164 頁 要旨掲載</p> <p>研究成果物 カルキディオス『プラトン「ティマイオス」註解』（西洋古典叢書）496 頁、 京都大学学術出版会、2019 年 11 月 20 日</p>	